

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602074		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 野中つつじ苑		
所在地	福岡県久留米市野中町771-1		
自己評価作成日	平成22年6月7日	評価結果確定日	平成22年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街の中にあり、静かであると共に、近くに公園や文化センター等の施設があり、環境には恵まれている。 ・心身の機能維持、改善を目指して、外出及び散歩の機会を多く持つようにしている。 ・利用者間、職員間の人間関係に気を付け、良好な関係を保てるように心掛けている。
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域密着型の事業所として、自治会への加入、文化センターへの見学、地域行事への参加などを通じて、積極的な地域交流を図っている。ホーム内は、過度に飾り立てることなく、家庭的で落ち着いた雰囲気作りがなされている。職員は、利用者の心情の変化やペースに合わせて「待つ・見守る」ことを実践し、一人ひとりの利用者に合わせてケアが行われている。2ヶ月毎の“たより”の送付、家族面会時の声かけと支援経過等を提示しながらの説明、その都度の電話連絡などを通じて、利用者の暮らしぶりを伝えるとともに、家族の意見や要望等の把握に努めている。ホーム協力医と利用者の今までのかかりつけ医との連携体制がとられるなど、医療面も安心である。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年6月23日		

自己評価および外部評価票

ユニット名: 2階

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らし続けるという内容を含んだ理念を作成した。それを、ホームや詰所の見易い所に明示し、日々確認しながら業務に就くよう心掛けている。毎朝朝礼で読み上げることを実践している。	地域密着型への移行とともに、理念の見直しが行われている。全職員の意見をまとめ、地域とのかかわりを意識した理念が作成されている。カンファレンスや日々の業務を通じて、理念を意識したケアへ取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会への加入、近隣への散歩時の挨拶などから、日常的な付き合いへと広がるように努めている。 ・地域の行事(お祭、敬老会、公民館行事等)へ参加し、地域との関わりを深めている。	散歩時の挨拶、地域の行事や敬老会、バザーなどへの参加と見学、子供神輿の見学など、日常的な地域とのかかわりが見られる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で民生委員や自治会の方々に認知症ケアについての苑での状況を話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行ない、意見を伺っている。特に地域との交流に関して情報提供して頂きサービスの向上に活かしている。外部評価の自己評価も全員に配布し意見を求めている。	関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。地域の情報収集や行事へのお誘い、行政職員による介護保険制度や感染症の予防法についての講話など、活発な会議の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所や包括支援センターの担当者の方へ出席して頂き、意見交換を行っている。又、市が主催する「地域密着型サービスの生活圏事業所交流会」に出席し、市の担当者の方とも交流を図っている。	運営推進会議に、行政担当職員、地域包括支援センター職員の参加が見られる。市保護課より利用者の紹介を受けたり、大学の研修テーマに沿った実習生の受け入れなど、行政との連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について考えて、スタッフ皆で最良の方法を模索しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム玄関は、外部からの侵入防止のためオートロック形式を採用しているが、ホーム内から外へは自由に出入される。職員は、カンファレンス時の事例や研修を通じて、身体拘束について学んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止法」についての研修を行い、スタッフが理解するように努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	勉強会を開催し、スタッフが学ぶ機会を作っている。又、実際に「日常生活自立支援事業」を利用している人も居る。	職員は、法人全体の勉強会を通じて学んでいる。家族に対しては、相談時等、必要に応じての説明である。	今後の支援の一角を担う重要な制度であることから、必要時の説明に留まらず、契約時や運営推進会議を利用して制度についての情報提供を行うなど、高齢者の権利を守るための取組みを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書の各項目について説明、確認し、理解及び了解を得られるように心掛けている。 ・見学、体験利用等で、利用者や御家族の不安を軽減するようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置 ・相談窓口の案内、ポスターの提示 ・運営推進会議への参加、面会の自由、面会時のスタッフとの対話等、気楽に意見が言えるように心掛けている。また、意見は記録に残して全職員の目に入るようにしている。	日々のかかわりを通じて、利用者の思いを把握している。2ヶ月毎の苑だよりの送付、家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡などを通じて、家族の意見等の把握に努めている。出された意見等は、介護計画書や行事に反映させるなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回管理者を交えてカンファレンスを行ない、ケアプランの見直しや、意見交換を行っている。他にも申し送り後の話し合い、申し送りノートの活用、問題発生時のミーティングの開催等意見や提案を聴く機会を設け反映させている。	苑長、管理者を交えての毎月のカンファレンスや職員間での情報交換時などに、職員の考えや意見、アイデアを自由に出し合うことが出来る。出された意見等に対して、後日回答するなどの取組みがある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフのカンファレンスに参加し、意見交換を行っている。職員の努力や実績が、給与にも反映するよう努めている。就労時間にも配慮しまた資格手当等も随時見直し、よりよい職場環境になるよう努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は介護への思いを大切にしており、性別、年齢で差別はしない。労働時間もほぼ規定内に収まるようにしている。ローテーションも本人の希望になるべく沿うように配慮している。	職員の採用に関しては、制限等は一切設けていない。資格取得に向けての勉強会を開催するなど、働きながらの資格取得に向けた支援体制がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する歴史や話の資料を回覧し、啓発している。	様々な人権等についての情報を収集し、職員間での回覧を通じて、職員の人権意識を喚起する取組みがある。他国籍大学生の研修実習の受け入れを行うなど、実績を通じた取組みがある。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた育成計画を立てるまでは至っていない。管理者はじめ職員の苑内研修や外部研修に参加してもらったりしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市が主催する地域密着型サービス生活圏事業所交流会に参加し、意見交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設、病院、家族等からの情報提供を参考に、出来るだけ本人の思いを受け止めるように、面接や体験利用等を重ねるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の家庭訪問、施設、病院訪問等、事前に面会をし、御家族、本人の希望、困っている事等を聞く機会を作っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入苑前に関わってきた医療機関、介護施設、その他関係諸機関からの情報収集、並びに家族や本人からの聞き取りを行い、適切な対応が出来るように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職種を含めた個々の中での生活の場として湧き出る色々な思いを大切にしている。利用者の蓄積された生活の智恵を教わり、また、出来ることをして頂いたり、お互い支え合う関係となる様に努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への状況報告を行い、本人からの要望又は変化があった場合は相談し、共に考えてもらって家族の協力を得ることも多い。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に本人の馴染みのある場所に立ち寄り、馴染みの人との電話や面会等の支援を行っている。	以前住んでいた自宅周辺やよく利用していた商店街周辺へのドライブ、神社仏閣への参詣、いままでのかかりつけ医への受診対応など、馴染みの場所や習慣等への継続支援が行われている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場面場面に応じ、気の合う同士が近い席になるための工夫をしたり、スタッフが間に入ってコミュニケーションをとり、孤立しないように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状、精神症状の悪化等による契約終了においては家族に連絡し、状況を尋ねたり、又はお見舞いを実施する等その後の状況を伺い関係を続けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングを行いカンファレンスなどで本人の意向に沿えるように検討している。	利用者の行動や利用者との何気ない会話、ケアの場面等を通じて、利用者の思いや気持ちの把握に努めている。把握した思いや気持ちは、支援経過等に記し、カンファレンスにて協議するなど、情報の共有が図られている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを作成し、これまでの生活歴や暮らし方の記録を取り、把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	2ヶ月に1回のアセスメント、毎月のカンファレンスを行い、スタッフ全員で検討している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリング、また家族との面会時に意見を聞き、ケアプランに反映できるようにしている。	アセスメント要約、支援記録、日課計画を基に担当職員が介護計画書を作成し、計画作成担当者の確認が行われている。毎月のカンファレンス、3ヵ月毎の担当者会議、6ヶ月毎の見直しにて、利用者の状況の確認と介護計画書の見直し・再作成がある。	できることの支援だけでなく、利用者に残された能力を真に発揮できるような場の提供とかかわりを持つためにも、担当者会議への利用者本人及び家族の参加を図られ、利用者の自立支援への意識付けとなるような取組みを期待します。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の「施設介護経過」記録を作成し、情報の共有、参考としている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて、外出、宿泊と病院送迎、その他生活に必要な支援を柔軟に行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治委員の支援を受け、地域交流を行い、地域の行事にも参加している。また、消防機関とも協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により入所以前の主治医を継続して支援したり、本人の状態に応じた医療支援も行っている。又、事業所かかりつけの医師には24時間緊急時にも対応してもらっている。	ホーム協力医による、2週間に1度の往診がある。利用者の今までのかかりつけ医への受診は基本的に家族対応であるが、家族対応が無理な場合はホームで支援している。かかりつけ医と協力病院間での連携が図られており、適切な医療受診への支援がある。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や気づきは、看護職員や協力医の看護師等に随時相談し、適切な受診や看護に役立っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に主治医や担当の看護師より治療方針、経過について説明を受けている。病院が主催する勉強会に出席している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族を交え話し合い、御家族の希望等を考慮しながら方針を決定している。	利用者の状況等に応じて、主治医や関係者で協議しながらの支援がある。看取りに対する、ホームとしての体制等の構築及び、利用者・家族の意向等の把握と職員間での共有は、今後の課題である。	人生をどう生き、どう送るのかの決定の権利は利用者にあります。日々のかかわりを通じて、利用者の思いの把握と情報共有に努め、利用者の思いを尊重した支援への取組みを期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的ではないが、カンファレンスや勉強会を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画、防災マニュアルを作成し、スタッフがいつでも確認できる場所に置いている。また、定期的に避難誘導訓練を行っている。地域との協力体制も少しずつ進んでいる。	消防署職員の立会いによる、年に2回の避難訓練の実施がある。非常時の救急への連絡方法について指導を受け、各フロア内に方角を示した紙を貼るなどの取組みがある。運営推進会議時に、非常災害時等についての意見交換が行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関することは他の利用者さんの前では絶対に言わないことを心掛けている。又、言葉遣いには、スタッフ全員注意している。	利用者の言動や様子を観察した上での穏やかなやさしい声かけが行われるなど、理念を意識した対応が見受けられた。法人全体で、プライバシーや尊厳について勉強会を行うなど、対応の徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと本人の関係を話し易い雰囲気になるようにスタッフが心掛けている。 ・一方的にスタッフの考えを押し付けない ・雑談の中で本人の思いを尋ねている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	申し送り等によって、その人の前日～今朝にかけての様子を把握し、その日の心身の状態を考慮している。散歩、入浴、レクリエーション等を行う際には必ず本人の意向を尋ねている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着衣の購入に際しスタッフの目で選ぶのではなく、本人の好みで購入している。 ・入苑前からの馴染みの店がある利用者さんには、その店が引き続き利用できる為に送迎している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等何らかの形で調理に携わってもらっている。出来る方には食器洗いや食器拭き等をしてもらっている。	食事は、併設事業所内で調理され、各フロアでの配膳である。時には、ホーム内での調理への取組みが行われているが定期的ではなく、食を通じたケアへの取組みが、若干弱い点が今後の課題である。	利用者の食へのかかわりは、日常のケアの中で重要な要素の一つです。利用者一人ひとりの能力に応じた役割作りと場の提供等、食への定期的なかかわりを通じて、自立に向けた支援への取組みを期待します。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートに水分と食事摂取量のチェック項目を設け、一目で分かる様にしている。 又、摂取量が少ない人には好みの物を用意して補食してもらっている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし歯磨きを励行している。週に2回義歯洗浄液を使用し洗浄消毒している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日チェックしながら1人1人の排泄間隔をつかみ、定期的にトイレ誘導するのではなく、個別に計画を立て、その人に合わせたトイレ誘導、援助をしている。	利用者毎の排せつチェックシートから排せつパターンを把握しての声かけ、利用者の様子や態度をよく観察した上での声かけ誘導等、排せつの自立に向けての取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お米は胚芽米を使用し、毎朝バナナジュースを提供したり、水分を多く摂取して頂いたり、飲食物で排便を促す工夫をしている。又、レクレーションに体操を取り入れたり、散歩を励行している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	事前に本人の入りたい時間帯を設定しており、入浴前には必ず本人の意思確認をしている。	午前から夕方までの時間帯で、一日おきの入浴実施である。お風呂の準備は毎日しており、利用者の希望にそった対応がある。入浴拒否が見られる利用者に対して、対応する時間や職員を変えたり、会話の中でさりげなく誘導を行うなど、自然な形での入浴実施である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の入眠前の習慣は大切に、気持ち良く眠られるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・1人1人の服薬状況を表にし、スタッフが薬の内容を一目で分かるようにしている。 ・薬事提供書を個人ファイルに閉じ、薬の内容が分かるようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味、体験に応じた楽しみ事や役割が出来るような支援を心がけている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩を計画している。個人の体力、歩行状態を考慮して、行き先や一緒に出掛けるメンバー等を決め、個別に対応している。	日々の散歩、季節毎の花見、行事としての外出・外食、地域行事や文化センターへの見学など、利用者の希望にそった支援がある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にはスタッフが付き添うが、支払い時に本人が直接財布からお金を出して支払うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話使用の規制は無く、希望時には掛けられる様にしている。 ・手紙に関しては、一緒に郵便局へ行ったり、又は代わりに投函したりと援助している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を取り入れた装飾をする。 ・加湿器、エアコン、空気清浄機を設置している ・新聞や雑誌を置き、誰もが自由に読めるようにしている。	フロア内は、自然採光と照明により、適度な明るさが保たれており快適であった。リビングのテーブルには生花が飾られ、食後ソファで寛ぐ利用者の穏やかな表情から、居心地の良さが伺えた。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席の配置の工夫。 ・個人の席以外にソファを置き、自由に座れるようにしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人とよく相談し、使い慣れた家具や思い出の写真を飾る等、思い思いの居室を作っている。	各居室には、タンス、仏壇、テレビ、写真、テーブル、椅子などの、使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれており、利用者の個性溢れる居室となっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、居室内手すりを設置している。 ・バリアフリー ・トイレ、居室入り口には、分り易い様に目印を付けている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			